

第3回「釧路湿原川レンジャー学習会」が開催されました

平成23年11月15日（火）に、21名が参加して「第3回釧路湿原川レンジャー学習会」を開催しました。

今回は湿原右岸築堤での「湿原学習」、標茶町茅沼での「魚類調査」と釧路河川事務所での「ヨシのコースター作り」を行いました。

湿原右岸築堤での「湿原学習」

普段は車両通行止めの湿原右岸築堤から赤沼を望んで湿原学習を行いました。この赤沼周辺は、釧路湿原では希少なミズゴケ類が主体となった高層湿原になっており、非常に重要な地区のため、国立公園の中でも「特別保護地区」に指定され、保護を最優先として位置づけられています。そのため、遊歩道の整備やガイドブック等にも紹介されておらず、特別な許可を得た研究者等しか立ち入ることが出来ない所となっております。

湿原は、周囲との高さの関係から表-2のように低層湿原・中間湿原・高層湿原に区分されています。高層湿原は周辺より盛り上がっているため、周辺から栄養のある水が流れ込まず、雨水などの栄養の少ない条件で生育するミズゴケ類が生長します。ミズゴケは吸水性・保水性に優れており、高層湿原ではこのミズゴケ類を拠り所に高山植物・寒地植物などが生育しています。

表-2 湿原の区分

区分	主な植生	草丈	水質	特徴
低層湿原	ヨシ スゲ類	高い	富栄養	周囲より標高が若干低い湿原 釧路湿原の多くが低層湿原
中間湿原	ヌマガヤ イネ科植物 スゲ類	高層湿原 より高い	やや 豊富	低層湿原から高層湿原に移行する際の湿原 (高層湿原ほど盛り上がっていない)
高層湿原	ミズゴケ類	低い	貧栄養	低層湿原に生えているヨシ・スゲ類が枯積が進み、周囲よりも盛り上がった状態 高山・寒地・食虫植物も生育

また、湿原右岸築堤を移動中の車窓からオオワシ、タンチョウ、エゾシカなどの野生動物が数多く観察され、参加者からは「貴重な動物も見る事ができ、参加して良かった」などの意見がありました。



オオワシ



位置図



湿原学習箇所

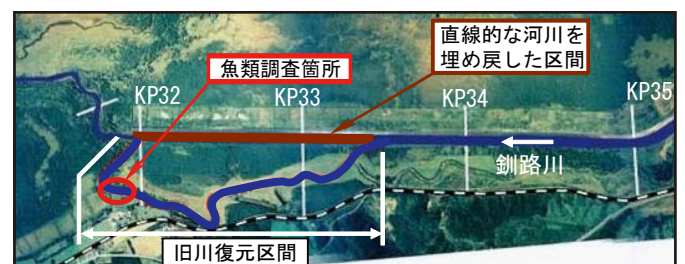


湿原をバックに記念撮影

参加者から「赤沼の名前の由来」について質問があり、専門家の方に問い合わせをしたところ、赤茶色の水の色から赤沼と呼ばれたという説もあり、かつては白鳥沼とも呼ばれていたこともあったそうです。

旧川復元区間での「魚類調査」

この調査は、旧川復元事業により直線的な河川から元の蛇行した河川に戻したことで、魚類の生息環境の復元が期待されるので、魚類の変化を把握するために行いました。調査には、釧路湿原自然再生協議会の針生委員に同行して頂き、最初に「小型定置網・刺網・カゴ網・電気ショッカー・サデ網・タモ網・投網」の漁具7種類の説明を受けました。説明後、北海道から特別な許可を受けた参加者がタモ網と投網で調査を行い、表-1のような7種19個体を捕獲しました。調査の結果、旧川復元前は流れの緩やかな環境に生息する魚しかいませんでしたが、流れの速い環境で生息する魚が戻ってきたことがわかりました。

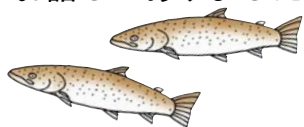


調査箇所図

表-1 魚類調査結果 (茅沼地区旧川復元区間)

No.	科名	種名	調査方法別		合計	備考
			投網	夕毛網		
1	ヤツメウナギ科	カワヤツメ属 sp. (アンモシーテス)		1	1	止水域・緩流域の砂泥に潜って生息
2	コイ科	エゾウグイ		2	2	流れの速い所を除く様々な環境に生息
		ウグイ属 sp.		3	3	
3	ドジョウ科	フクドジョウ		1	1	速い流れを好むが、緩流域にも生息
4	サケ科	ヤマメ※	1		1	止水域を除く、流れの速い所や緩流域に生息
5	トゲウオ科	エプトミヨ		4	4	止水域・緩流域に生息
6		イバラトミヨ		3	3	
7	ハゼ科	ジュスカケハゼ		2	2	〃
個体数合計			1	18	19	※ヤマメは、旧川復元前には、いなかった種
種類数			1	6	7	

最後に針生委員から、「旧川復元により流れが緩い所や速い所など色々な環境があり、今日は捕れていないですけど、復元前にいたエゾホトケドジョウ（絶滅危惧Ⅱ類）もいますし、復元前にはいなかったサケの仲間も捕れています。色々な環境が回復してきていると思われ、本当にありがたいです。」とのお話がありました。



捕獲した魚類



針生委員による説明



調査する参加者 (投網)

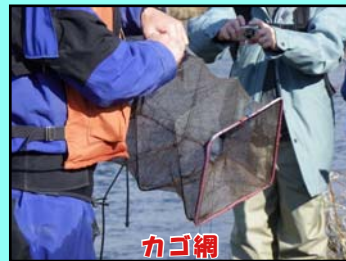
調査で使用する漁具



小型定置網



刺網



カゴ網



電気ショッカー



サシ網



夕毛網



投網

「ヨシのコースター作り」と「観察活動の説明」

午後からは釧路河川事務所に場所を移し、ヨシのコースターを製作しました。初めての方が多く、経験者の方は初心者に指導しながら、皆さん楽しんでヨシを編み、コースターを作っていました。

また、釧路湿原川レンジャーの紀国さんが新釧路川や仁々志別川の現状や変化を見るために日頃から撮影している写真を回覧し、アオサギやオジロワシなどの野鳥や特定外来生物であるミンクなどが生息している状況を説明していただきました。（別紙の釧路湿原川レンジャー活動報告を参照）参加者は、紀国さんから色々な説明を受けて、興味深く聞き入っていました。



紀国さんの説明を聞く参加者



作業する参加者



糸を巻いてヨシを編む



作ったコースターと記念撮影

河川防災ステーションについて

最後に「標茶地区河川防災ステーション」についての説明を受けました。参加者から「何故、標茶に作ったのか？」という質問がありましたが、防災ステーションは釧路川中上流部（標茶・弟子屈）の水防活動の拠点となる施設で、ヘリポート避難場所としての機能も持っています。また、災害時に必要な緊急用資材の備蓄、排水ポンプ車などの災害対策用機械も配備しており、市町村の行う水防活動も支援しています。



説明を聞く参加者